

今年夏が長かった。十月十日を過ぎて漸く真夏日がなくなった。「秋」をこれ程恋しく思ったことは未だ嘗てない。日本の季節がどこかに行ってしまった。

● わらを焼く香り広がる足柄野酷暑乗り越え秋來たるらし
県道七一一号線をバイクで走ると何処からともなく藁を焼く香りが漂って来る。嗚呼なつかしい秋の香りだ。

● 足柄野後方に聳える丹沢は肩肘張って秋の陽浴びる
七一一号線を北に向かって走ると丁度丹沢連山が真正面にみえる。秋の澄んだ空気のなかで稜線がくつきりと浮かび出している。

● 梵鐘が朝の空気に染み渡り秋の一日始まりんとす
玉宝寺の住職が撞く鐘の音がゆっくりと辺りに広がり空は朝日に染まって行く。ゆったりとした一日が過ぎせる日本はなんとありがたい事か。ウクライナやパレスティナでは多くの人が悲惨な日々を過ごしているのに。

● 赤白のコスモス彩る園庭に子どもらはしゃぐ秋の一日
大井町幼稚園は周りにあまり建物がなく広い庭が前面に作られ遊具や花壇が配置されている。よい環境の幼稚園だ。

● 武蔵野の墓地を訪ねてやれこれはわが永遠の棲家と想う
多磨霊園へ久し振りに電車で行った。車でゆけば一時間半で行けるのに電車では二時間半かかった。しばらく間を置いたために、墓地は雑草に覆われていた。申し訳無いと詫びつつ草むしりを始めた。

● 草むしり暮石洗い見上げれば松の梢に秋風ぞ吹く
久し振りに乾燥した風がふき、松の樹が飄飄と音を立てていた。一つ置いたとなりの墓では夫婦が並んで座り、掃除を済ませた後の会話を楽しんでいた。

● 花描く閨秀画家は去りゆきぬ訳も行方も告げる事なく
半世紀ぶりに出会った通学友達は、花の絵を書く画家になっていた。華やかな絵柄が気にいり数枚買った。だがこの秋にひっそりと姿を消してしまった。花が枯れるのを見せたくなかったのだろうか。